

アコヤガイモニタリング調査結果

(調査日：令和6年5月24日)

愛媛県農林水産研究所水産研究センター

1 調査結果の概要

- ・栄養の蓄積状態を示す貝柱のグリコーゲン含量は、全海域で高く、良好な状態であった。
- ・貝殻異常については、一部の貝に昨年の感染で回復中に形成されたと考えられる段がみられたが、真珠層の褐変個体は確認されなかった。
- ・貝柱の赤変個体は確認されず、赤変度合を示す a 値の平均値は低かった。
- ・現在水温は平年並みであり、貝に異常は確認されていないが、水温が 19℃以上になると、漁場や貝から多くのビルナウイルスが検出され、症状が現れてくることも考えられるので、貝の観察及び管理に注意してください。

2 調査結果一覧

() 内は昨年同月の値

| 漁場*1 | 貝の種類 (R5産) | グリコーゲン含量 平均値 (%) | a 値 平均値 | 赤変個体 (個) | 褐変個体 出現率 |
|------|---------------|---------------------|------------|-------------|-------------|
| 北部 | 日中交雑貝*2 | 11.8(7.0) | -0.7(-1.0) | 0 | 0% |
| 中部① | 日中交雑貝 | 8.1(10.8) | -0.5(-0.4) | 0 | 0% |
| 中部② | 日中交雑貝 | 4.5(12.3) | -0.9(-0.8) | 0 | 0% |
| 南部 | 日中交雑貝 | 6.5(9.6) | -0.9(-1.3) | 0 | 0% |
| 平均値 | | 7.7(9.9) | -0.8(-0.9) | | |

*1 漁場： 北部：三浦半島以北 中部：由良半島から三浦半島 南部：由良半島以南

*2 日中交雑貝：日本貝と中国貝の交雑貝

3 調査方法

- ・5月から11月まで月1回(概ね第3週)、各漁場・種類毎に20個を調査。
- ・サンプルは、愛媛県漁業協同組合本所宇和島事業部が、調査日2日前をめぐりに各漁場で採取して持ち込んだアコヤガイ母貝(2年貝)。

4 調査項目および判断指標

- ・グリコーゲン含量(%):アコヤガイの栄養蓄積状態を示す指標で、数値が高いほど良好。
- ・a 値:閉殻筋(貝柱)の赤色度を示す指標で、数値が高いほど赤みが強い。
赤みを帯びた黄色で3、明らかな赤色で5以上。

「アコヤガイ飼育管理の手引」公開中

<https://www.pref.ehime.jp/uploaded/attachment/111520.pdf>